

み・う・し NEXT

北区GIGAスクール構想通信



— 教育DXで広がる子どもたちの学び —

令和8年
7月号

<https://www.city.kita.lg.jp/children-edu/schools/1018650/1018654.html>

東京都北区教育委員会教育振興部 教育DX推進課 (03-3908-9273)

教育DXリーダー検証授業レポート②

未来の自分を守る「デジタルのよき使い手」に! 『デジタル足あととアイデンティティ: 未来の自分を守る』

今や子どもたちの日常に欠かせないものとなっているスマートフォンやSNS。とても便利な反面、保護者の皆様にとっても「トラブルに巻き込まれないか」という不安は尽きないことと思います。そこで、7月14日に教育DXリーダーである堀船中学校・豊嶋 涼先生によるデジタル・シティズンシップ教育の検証授業を2年生を対象に行いました。

今回の授業は、デジタルやテクノロジーを遠ざけるのではなく、未来の自分を助ける「資産（武器）」としてデジタルを自律的に正しく使いこなす「善きデジタル市民」の資質を育む、最先端の試みです。

授業は、先生自身の「中学生の頃、ちょっと話を盛ってしまった」というエピソードからスタート。身近な話に生徒たちの緊張は一気にほぐれました。生徒たちへの質問で、SNSを利用した経験のある生徒は約8割。SNSや友達との会話で、自分をよく見せるために話を「盛った」経験のある生徒も半数ほどいました。

そこで生徒に示されたのが、SNSで注目されることに夢中になり、「キラキラした自分」を演じるようになった中学生「サオリ」の物語です。たくさんの「いいね」は嬉しい。でも、本当の自分との違いにだんだん疲れていく。そして、一度ネットに投稿した情報は、削除してもコピーや拡散によっていつまでも残る可能性があることを知ります。これが「デジタル足あと」と呼ばれているものです。

SNSのよさや便利さも理解する

一方、SNSには危険な面だけがあるわけではありません。授業では、高校生がSNSを活用して学校の魅力を発信した結果、進学希望者が増えたというニュース動画も視聴しました。生徒たちは、SNSには「怖さ」がある一方で、人とつながったり、自分たちの思いを広く伝えたりできる「よさ」や「便利さ」もあることに気付いていったようです。

後半は、「サオリが10年後の自分に誇れる『足あと』を残すには、どうすればよかったのか」を考えました。タブレットで全員の意見を共有した後、気になる意見を書いた人のところへ直接話を聞きに行き、そこで得た考えを自分の班に持ち帰ります。友達の多様な考えに触れることで、自分だけでは気付かなかった見方へと考えが広がっていきました。

- ・「無理にバズろうとしないで、自然体で投稿すればよかった。」
- ・「見栄をはらないで、自分が楽しいと思う投稿をすればよかった。」
- ・「自分を変えてまで投稿する必要はなかった。」

この授業が目指しているのは、「SNSは危険だから使わない」ということではありません。デジタル社会の中で、よさもリスクも理解した上で、「自分はどう使いたいか」を自分自身で考え、判断することです。

今日の投稿は、未来の自分へと続く「足あと」になります。10年後の自分が見ても「これが自分だ」と胸を張れるような足あとを残していくこと。それも、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力なのです。



話合いで多様な考えがあることに気付く。

北区GIGAスクール構想通信『みらいNEXT』は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、教育DX推進課が毎月発行いたします(8月以外)。

きんちゃん こん太 きた子 コンちゃん by Toshi & Chappy



デジタル足あとを「未来の財産」に

「デジタル足あと」(デジタルタトゥーとも言われます)と聞くと、「一度投稿したら消せない」という怖いイメージをもちがちですが、残るのは悪い情報だけではありません。頑張ったこと、作品、誰かを応援した言葉なども、自分の大切な記録になります。

投稿する前に「未来の自分がこれを見たら、どう思うかな?」と考える習慣が、デジタル足あとを未来の自分に誇れる「財産」に変えていきます。